

## レーザー工学基礎論

2 単位 (選択 (A))

## Introduction to Laser physics and applications

原口 雅宣・教授 / 光応用工学科 光機能材料講座

【授業目的】 将来のレーザー技術・装置にも対応できるように、レーザー光の特徴を説明するキーワードであるコヒーレンスと、レーザーを実現するのに不可欠な誘導放出・共振器および、レーザーの基本構造と動作原理の基本的理解を目的とする。また、今後のレーザー光の応用上重要な非線形光学についてその初歩的な内容の理解も目的とする。

【授業概要】 現在の光産業の中核をなすレーザーは、情報機器、通信回線、精密加工や医療での応用など、様々な分野で使われている。現在、レーザー技術は急激な発展過程にあるため、レーザーに関係する基本的な概念や原理の理解を助けるよう講義を組み立てる。また、将来のレーザー応用上重要であると考えられる、非線形光学についても時間をかける。

【キーワード】 量子力学, 光共振器, 誘導放出, 光学結晶, 非線形光学

【先行科目】 『波動光学』(1.0), 『電気磁気学 2』(1.0), 『光・電子物性工学 1』(1.0), 『光・電子物性工学 2』(1.0), 『量子力学』(1.0)

【関連科目】 『光デバイス 1』(0.5), 『光導波工学』(0.2), 『半導体ナノテクノロジー基礎論』(0.5)

【履修要件】 波動光学および材料の光に対する応答について基本的な概念を理解していること。

【履修上の注意】 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

【到達目標】

1. コヒーレンス, 誘導放出, 共振器のキーワードが説明できる
2. キーワードを駆使してレーザーの特徴や基本構造およびその動作原理の説明ができる
3. 高調波発生の原理と応用例について、専門用語を用いて簡単な説明ができる

【授業計画】

1. レーザ概論, レーザの歴史
2. コヒーレンス
3. 光吸収, 光放射, 光増幅
4. 光共振器
5. レーザ発振の条件
6. レーザ動作解析
7. 発振周波数特性

8. 中間テスト, 試験問題の解説, 各種レーザー装置その 1
9. 各種レーザー装置その 2
10. コヒーレント光の変調
11. 非線形媒質中の光伝搬
12. 二次の非線形光学効果と三次の非線形光学効果
13. 非線形光学デバイス
14. レーザの応用
15. レーザに関する安全
16. 期末テスト, 試験問題の解説, 将来のレーザー

【成績評価基準】 講義への取り組み状況(10%), レポート(6%), 小テスト(24%), 中間試験(30%), 期末試験(30%)により評価する。総合評価し満点の60%を合格とする。

【JABEE 合格】 単位合格と同一である

【学習教育目標との関連】 学科の学習目標 B

【教科書】 後藤, 森著, 「量子エレクトロニクス」, 昭晃堂, 1998

【参考書】

- ◇ 末松安晴, 上林利生共著, 「光デバイス演習」, コロナ社, 1986
- ◇ レーザ技術総合研究所編, 「レーザーの科学」, 丸善, 1997

【WEB 頁】 <http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216480>

【対象学生】 他学科学生も履修可能

【連絡先】

⇒ 原口 雅宣 TEL:088-656-9411, E-mail: [haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp](mailto:haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 波動光学, 電磁波, 材料物性に関する科目を履修していることを前提として講義する。